

序

今年は新たに4名の1年生が加わり、2年生4名、3年生5名、4年生5名、過年度生1名、総勢19名のゼミとなった。教育実習は、期間がずれた帯広の1件を除いた4名の研究授業をみることができた。今年は帯広2名に名寄1名と、遠方での実習が多かった。本年度卒業予定の5人（1名の卒業が1年延期）は、埼玉の私学（武南）での採用1名と、旭川実業と北海道小学校が各1名臨採となる他、日本郵政・石狩市役所となった。なんだかんだで、今年は半数以上が教員である。今年も、公務員については若干困難を強いられた感がある。

ゼミ運営も例年通り、前期は主に文献購読、後期にゼミ誌の作成といった内容である。今年は1年がかりで『社会学入門』（弘文堂、2010）を読んだ。19章構成だったので、2章ずつ進む方式をとったが、テキストに指示されたお題が論争的だった回について予定のペースで進められなかったこともあり、読了できずに終わった。次年度の4月中には片づけられるだろう。ただ、やはり90分で2章をこなすのは、いかんせん消化不良の感が強いので、原則としてこのやり方は今後採用しないつもりである。

本年度のゼミ旅行は、10月14・15日に小樽・余市方面を訪れた。古平町を目的地として、初日は、雨竜・浦臼の道の駅をはしごして、小樽で昼食をとって、午後にフゴッペ洞窟・ニッカウイスキーを見学した。一部はストーンサークルの見学も行っている。2日目には、余市の宇宙記念館とおたる水族館を見学し、途中、厚田の夕日の丘で合流した後、帰路に就いた。食は、今年も乗車した車ごとに行動することもあったが、比較的同じ場所で食事ができた。2日目の青塚食堂が使えなかったのは若干残念だったが、とりあえず入った「潮騒」は悪くなかった。夜の飲み会は、宿が市街地から遠かったこともあり、宿での実施になった。ニッカで買ったウイスキーの飲み比べが思い出である。また、民宿のおばちゃんには、朝飯のおにぎりまでもらい、感謝である。

年々ゼミイベントは増えている。今年の工場見学は5月下旬に日本製紙旭川工場を訪れた。今回は、工場内の見学のみで、リサイクルプラザ紙遊館は次回のお楽しみということになった。また、大学生協で収集した大量のわりばしと紙パックの輸送も手伝ってもらった。今年も、同日市内で新歓コンパだったが、0次会が盛り上がり、せっかくの地ビールをほとんど飲めないほどの出来上がりようだった。7月末、本年度3度目の、浜頓別町の「北オホーツク100kmマラソン」のボランティアスタッフとしての参加は、三度目の正直で、快晴であった。今年は教員も参加することができたが、若干参加者が少なかったのが残念である。11月には、昨年に続き植樹を行った。10本のエゾヤマザクラが福利厚生施設横の敷地に植えられた。今年は雪が早く、初積雪が11月上旬の早い時期であり、植樹が雪をよけての実施になったのも記憶に残りそうである。

角 一典